

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西成区
学 校 名	岸里小学校
学校長名	竹口和代

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・岸里小学校では、第6学年 65 名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語〕本校の平均正答率は58%で市平均正答率64%から6ポイント、全国平均正答率から7.6ポイント下回った。無回答率は市平均の4.8%より1.3%低く3.5%であった。

〔算数〕本校の平均正答率は60%で市平均正答率62%より2ポイント、全国平均正答率から3.2ポイント下回った。無回答率は市平均の3.3%より1.6%低く1.7%であった。

〔理科〕本校の平均正答率は49%で市平均正答率60%より11ポイント、全国平均正答率から13.3ポイント下回った。無回答率は市平均3.9%より0.9%低く3.0%であった。

〔児童質問紙〕「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」100%「友達と協力するのは楽しい」98.3%「人が困っているときは進んで助けていますか」91.8%と大阪市平均を上回る肯定的な回答となっている。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」の肯定的回答が全国より20ポイント低い結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

話し言葉と書き言葉の違いの理解や漢字などの「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題があった。「読むこと」では昨年度より改善はしたものの、全国平均を下回り問題の意図を理解して「読み解くこと」に課題がある。全国や市の傾向と同じく「書くこと」の正答率は低かった。

〔算数〕

日常生活の問題を目的に応じて算数的知識を活用して解く「数と計算」「データの活用」は大阪市・全国と同様正答率が高かった。正答率の傾向は大阪市・全国と同様。「変化と領域」では割合や図や式を用いて基準量と比較量の関係を表すことに課題がある。

〔理科〕

市・全国と同様に基礎的基本的な知識・技能の定着や日常生活に関連付けて理解し問題を見つけたりすることに課題がある。「エネルギー」「粒子」を柱とする領域について市や全国と同様正答率が低かった。問題の意図を読み取り過不足なく答えることに課題がある。

大阪市の平均正答率と全国との差は「-0.6~-2.9」、本校も昨年度より改善傾向にある領域もあるが、依然として全国との差がある。考えをまとめたり、説明したりする「記述式」問題の正答率は全国に比べ8.5ポイント下回るなど「記述する」ことに課題がある。初見の文章のあらましを捉えること、質問に対し過不足なく答えることなど、基礎・基本の学習とともに個に応じた丁寧で確実な指導・支援を粘り強く継続することが必要である。

質問紙調査より

成果としては、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」100%など概要で記載した通り全国を上回る肯定的な回答となっていることがあげられる。これは、仲間づくりを柱に据えて自他を大切にする指導を保護者・地域と連携しながら継続してきた成果である。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」は、70.5%と昨年度より上回るが全国平均より下回っている。今後も児童が互いを認め合い育ちあう学習活動に取り組み、児童が「わかった、おもしろい」と感じ「主体的対話的で深い学び」につながる授業をめざし、工夫していく。また、自尊感情が全体的に低い傾向があり、児童が自分を肯定的に評価できるよう教育活動中の他者からの認証や互いの良さを認めあうことができる異学年交流等の機会を設定していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

【国語】

朝学習や読書タイム・本の読み聞かせ等の取り組みを継続する。音読で教材文の理解が深まるよう工夫した指導、児童がよりいっそう漢字に興味・関心が持てるよう工夫した指導や辞書を活用した語彙指導などを継続する。また、自分の考えをまとめ友達と交流する場面を設定すること、教材文から考えの根拠となる個所を引用して発表することなど、相手意識をもって自分の考えや思いをまとめ伝える活動を継続する。

【算数】

T Tや習熟度別少人数指導など個に応じた指導支援を継続し、基礎基本の定着に取り組む。朝の学習時間やITドリルの活用など様々な問題に接する機会を設定し「確実・丁寧・速さ」を児童が意識できるよう工夫する。課題を正確にとらえ、見通しをもって解決方法を探り、筋道立てて説明するプロセスを児童が理解できるよう授業を継続する。また、互いの考え方を検証し合う学習活動を進めていく。

【理科】

まとめのプリント学習なども活用し、基礎的基本的な内容の確実な定着を図るとともに、児童が興味関心を持って取り組めるようIT機器を活用する、観察実験を児童が主体的に協力しながら実施するなど、授業の充実に今後も継続して取り組んでいく。

【児童質問紙】

課題としては、普段の日の家庭での学習時間が、3時間以上の割合は市・全国との差が2ポイントに比べ、30分に満たない割合が学校45.9%市24.9%、全国14.7%と大きく二極化している。家庭学習の大切さを児童が理解し実践できるよう今後も、保護者と連携しながら児童の心身の状況や学習状況の把握に努め、一人ひとりに寄り添った指導支援を進めていく。